令和四年秋の見学会

令和四年十月二十七日（木）。10時に東武東上線上福岡駅集合で、秋の見学会を行いました。上福岡にお住まいの福沢先生も一緒に参加してくださいました。

総勢14名で上福岡駅を出発です。今回は川越方面から江戸東京への舟運の歴史や様子を考えるのが目的です。隅田川・新河岸川を利用した舟運はどのように発展し、汽車運送に変わっていったのかを知る機会としました。

まずは、上福岡駅の駅前広場にある「星野仙蔵顕彰碑」を読み解きました。星野仙蔵は新河岸川の舟運で栄えた福岡河岸で回漕問屋を営み、埼玉県会議員、衆議院議員を務めた人です。官営の鉄道ができたことで、川越から大宮周りで荷が運ばれるようになり、新河岸川を使った舟運がすたれてきました。そこで、川越から直線で東京と結ぶ鉄道の敷設を計画し、鉄道王と呼ばれた「根津嘉一郎」と協力し今の東武東上線の開業を実現しました。大正三年五月一日のことでした。新河岸川を使った舟運を見限り、鉄道輸送に力を入れたのでした。

次に、ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館に向かいました。上福岡の駅から歩いて20分ほどでした。ちょうどよい日差しで気持ちよく歩けました。

ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館に入ると、「私たちの上福岡」として、陸軍造兵廠の復元模型が目に入ります。そして、権現山古墳から出土した埴輪などから始まる上福岡の歴史がまとめられています。今回の目的である新河岸川の舟運についても詳しく展示されていました。二班に分かれて資料館の学芸員さんにお話を伺うことができました。江戸の時代、川越から新河岸川、隅田川を使って荷を運び、荷揚げ、荷積みしたのは、浅草花川戸だったとのこと。わが資料館の向こう岸ということになります。何かの因縁を感じざるを得ませんでした。資料館二階では、機織りの実践を見ることができました。簡素化した機織り機もあって、布の織り方、模様の付け方などがよく分かりました。

資料館を出て、新河岸川遊歩道を気持ちよく歩きます。30分ほどで、「ふじみ野市立
福岡河岸記念館」に着きました。

回漕問屋福田屋の明治時代中頃の主屋、台所棟、文庫蔵、離れが残っていて、記念館となっています。帳場が復元されており当時の雰囲気が分かります。二階以上には上がれませんでしたが、大勢のお客さんを接待した部屋があるとのことでした。

午後は、川越市に移動し、喜多院にバスで行きました。それぞれが川越観光をしてまた集まり、東武東上線で池袋に出て解散となりました。

＜岩﨑　博＞